

組合だより

第40号

9月30日
2002年

発行所
岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市津島中2-1-1
電話 086-252-1111(代)
(内線)7168
直通・FAX 086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

教研集会大成功

全大教教研集会が、9月6日～8日、岡山大学で開催され無事成功裡に終わりました。6日の開会集会には河野学長にも来賓としてご挨拶いただきました(後日詳報予定)。全国67大学・高専から255名(うち岡大58名)の参加のもと、法人化に對してどう反対しかつ対応していくのか、報告の概要をかいっつまんで報告します。

法人化と大学の自治

「旧文部省と旧科技厅の官僚との対立、そして遠山文科大臣と尾身科技担当相の立場」(東職)といった問題は、当面の法人化問題にさまざまな問題を生んでいるものと思われ

す「介入」を認めることではありません。こうした趣旨の名大職組の視点こそ、さらに具体的に深められていくべきものです。

大学憲章作り

「最終報告」に無批判な制度設計が現場の職員を窒息させる「地獄絵」であること

「最終報告」に無批判な制度設計が現場の職員を窒息させる「地獄絵」であること

にもかかわらず、私たちは、今後いかなる設置形態になろうとも、真理探究の場として研究教育を行うことを基本使命とする(名大職)のであり、そのための管理運営などは各大学の「特色・個性」が十分生かされなければならぬし、社会に開かれた大学ということ、大学の自治を侵

「最終報告」に無批判な制度設計が現場の職員を窒息させる「地獄絵」であること

にもかかわらず、私たちは、今後いかなる設置形態になろうとも、真理探究の場として研究教育を行うことを基本使命とする(名大職)のであり、そのための管理運営などは各大学の「特色・個性」が十分生かされなければならぬし、社会に開かれた大学ということ、大学の自治を侵

にもかかわらず、私たちは、今後いかなる設置形態になろうとも、真理探究の場として研究教育を行うことを基本使命とする(名大職)のであり、そのための管理運営などは各大学の「特色・個性」が十分生かされなければならぬし、社会に開かれた大学ということ、大学の自治を侵

評価をめぐって

岡大では、すでに個人評価が試行されていますが、客観的・合理的で統一した評価が可能なかどうかという点や、給与や処遇へ繁栄されて差別化がなされるのではないかと、といった危惧や、評価を行う上での膨大な作業とそれに見合う効果についての疑問などが報告されました(岡大職組)。「無責任な井戸端レベルの評価」(北海道教育者見沢校職)が教育機関をスポイルするおそれも指摘されています。

教員養成系大学問題

ご承知のように教員養成課程の入学定員は、98年以来5千人が削減され、関連大学は厳しい状況に置かれています。独法化をにらみながらどのように対応したらいいか苦渋の模索が続けられているようです(静大職、岡大職)。山形大は、02年5月「担当校断念」にまで至ったのですが、知事、県議会を始め、関係労組などの運動や15000人の県

民集会など現在も存続を求めていること(山形大職)。

学生ボランティアの森林活動

多くの報告が独法化からみのものでしたが、何本かの報告は、教育実践についての報告でした。中でもほぼ壊滅状態になってきた森林を生き返らせた隠岐島の「森の助っ人」活動の報告(島根大職)は興味深いものでした。農学(花卉栽培)を通して地域と連携した報告(岡大職)や「英語を勉強するおもしろさ」を伝える授業をするべきだとする報告(岡大職)も注目されます。

組合活動の今後

大学の根底が揺り動かされている現在、大職組の果たすべき課題は、非常に大きいと思われまふ。「法人化問題の中で教職員の身分・賃金・労働条件が危機にさらされようとしている今こそ」組合の重要性を訴えたい(東職)という報告、「交渉力量ある過半数組合」を目指す(岡大職)という報告等は、今回教研集会共通の結論と言えるでしょう。

座標軸

重い歴史の扉が開かれた。日朝共同宣言と両国の国交正常化交渉の再開である。敗戦時から数えて、半世紀以上、日本の朝鮮占領から数えるならば、実に1世紀近く、日本と朝鮮との関係は、「不幸な関係」であった。その関係を正常な関係に戻すための糸口がようやく開かれたのである。私は小泉総理に對しては、批判的見解をもっている。しかし、先のハンセン病訴訟と今回の日朝関係に對する総理に決断については、私は敬意を表する。この両件は、その他の悪政にもかかわらず歴史に残る偉大な功績だと思ふ。むろん、この決断に對して、さまざまな批判や意見があることを、私も知っている。私自身としても、注文のつけない点がないわけではないが、この状況、このタイムミスを考えるならば、一歩の前進を追求しようとする限り、それ以外の選択があり得たか、私は疑わしいと思う。ただ、それにしても拉致された人々の痛ましい結末である。さまざまに観測も飛び交っているけれども、たとえば、わずか13歳だった少女が突然体験した

恐怖と絶望、孤独と望郷の思いだけは、動かしようのない重い真実である。また、その父母の味わった苦惱も想像にあまりある。再会だけが、その苦悶を幾ばくかは晴らしてくれただけに、この悲報にすべての人が胸の潰れる思いをしたに違いない。この胸の潰れる思いが、さまざまな議論を呼び起こす。私も、あれこれの発言の誘惑に駆られる。国家犯罪とそれを見過ごし続けしてきた国家責任などなど。しかし今はそれらの言説には一切口をつぐんで、一つだけ指摘したい。1939年以来150万人の朝鮮人が「奴隷狩り」的に日本に強制連行された事実である。今私たちが体験している胸の潰れる思いをかつてかの国の人はいずれほどの規模で味わったことであろうか。『流れる星は生きていく』(藤原てい)は、そうした苦痛を押しつけた日本人が引き揚げ者として苦しんでいるとき大きな真つ白なおにぎりを「パンモグラ!」と差し出してくれた朝鮮の人の話を伝えている。争いと報復でなく、和解と赦しあいを、私は、この胸の潰れる思いから紡ぎ出したいと切望する。

(い)

盛り上がる交流集会

拍手喝采の歓迎合唱 広がる交流深まる親睦

親睦会

「情報交換や励まし合い」

教研集会二日目、7時間を超す長い研修会が終わった後、午後6時から、会場をマスカツトユニオンに移して、懇親会を開きました。参加者は、160人。岡山大学26人。加藤鎌司実行委員長の挨拶、全大教委員長糟谷氏の発声で乾杯です。疲れた喉にしみ通るようなビールが、充実した7時間の疲れが消し飛ぶ一瞬です。

まず岡大職組10名の合唱団が、加藤晴子先生のからかな指揮にあわせて、「聖者が町にやって来る」エ

また、そんな交流の中でどの組合も同じような共通の悩みを抱えていることが、わかっています。明治維新、敗戦の期に行われた学制改革に匹敵する大改革が、目下進行中です。時代の激しい潮流がもたらした変化を襲ってきます。



分科会のひとこま



合唱団生みの親 - 蝶ネクタイの中富書記長



とし明日者「明者」と、参加者には、参加した者も、合唱して、大合唱になりました。

練習の成果あり

「替え歌にやんやの喝采」

すでにお伝えしたように、組合では、この日のために、それだけでなく美しい喉に磨きをかけてきました。

声を一度出してしまえばもう大丈夫、後は自然に流れていきま

加藤先生のご指導のおかげで、参加者の熱意の甲斐あって、私たちのコーラスも人様のお耳に入れることが出来るレベルに達したと密かに信じていました。

近頃みんな忙しい個人評価や任期制歌ってこそ歌ってこそひらめく新発明あしたがあるあしたがあるあしたがあるさ(3番)

この歌詞を、「明日があるさ」のメロディで歌うのです。もう抱腹絶倒、拍手喝采。会場の参加者の大合唱になりました。

散歩道

朝の散歩道は、ちょっとした社交の場である。軽く会釈する人、元気におはようございますという人、いろいろである。